



*NEWSLETTER No.40*

# Organic Geochemistry

The Japanese Association of Organic Geochemists

日本有機地球化学会

2005.1.15

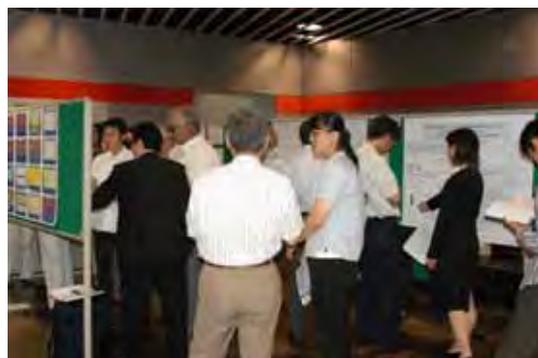
## Reports

### 第22回有機地球化学シンポジウム(2004年多摩シンポジウム)開催される

第22回有機地球化学シンポジウム(2004年多摩シンポジウム)は2004年8月5~6日かけて大妻女子大学多摩キャンパスにて開催されました。全国から66名の参加があり、22件の口頭発表、20件のポスター発表が行われ、暑さに負けない熱気溢れる研究発表や活発な討論が行われました。世話をさせていただいた井上源喜代表ほか大妻女子大学の方々にあらためて御礼を申し上げます。



2004年8月5日 大妻女子大学 多摩キャンパス 社会情報学部棟 前にて



会場風景

## 第6回(2004年度)日本有機地球化学会有機地球化学賞(学術賞) 受賞者決まる

第6回日本有機地球化学会有機地球化学賞(学術賞)は選考委員会で審議された後、8月4日に行われた運営委員会において、田上英一郎会員に与えられることが決まった。5日の総会において、福島会長より同賞が授与された。

### 有機地球化学賞(学術賞)第6号

田上 英一郎 会員

受賞題目:「海洋におけるアミノ酸・タンパク質の起源とその動態に関する研究」

田上英一郎会員は、海洋における沈降・懸濁態有機物および溶存態有機物の特性とその動態に関する広範な研究を展開し、海洋の表層から深層にわたる有機物の動態の解明に、世界に先駆けて多くの顕著な業績をあげている。

具体的には、海水中の非生物態有機物プール(懸濁態・溶存態有機物)中に、ほとんど修飾を受けていないタンパク質分子が普遍的に存在することを発見した。溶存態タンパク質中には、porin PおよびOmp-Aと呼ばれるバクテリア由来の膜タンパク質同族体およびバクテリア酵素である低分子アルカリフォスファターゼ(LAP)が存在することを明らかにした。懸濁態タンパク質からは、熱ショックタンパク質(HSP70)を同定した。これらの成果は懸濁態・溶存態の何れの有機物プールにおいても、基礎生産により生成したタンパク質のほとんどが分解される一方、特定の起源生物に由来する、小数の特定タンパク質がそれほど分解されないまま非生物有機物プールに蓄積していることを強く示唆する。



さらに、加水分解して得られるアミノ酸の化学形に関する研究も強力に展開し、懸濁態・溶存態を問わず、海水中の非生物態有機物プールに存在するアミノ酸の大部分は低分子ペプチドとして存在する事を見いだした。それらのペプチドは、分子同志の相互作用により、懸濁態有機物や溶存態高分子有機物として認識されている可能性が高い事を明らかにした。

以上の成果は、海洋有機物を分子レベルで捉えようとする研究方向により、海洋における有機物プールの化学像やその生成過程に関して新たなパラダイムを開いたものであり、有機地球化学がとるべき研究方向の一つを示すものである。

(有機地球化学賞(学術賞)受賞候補者選考委員会: 武田信従(委員長)、氏家良博、鈴木徳行、福島和夫、河村公隆)

## 2004年度 日本有機地球化学会運営委員会 議事録

日時: 2004年8月4日(水) 16:00~19:00  
場所: 大妻女子大学 社会情報学部棟 第四ゼミ室(6454)

### 出席者

会長: 福島和夫  
副会長: 武田信従

運営委員: 氏家良博, 奥井明彦, 荻原成騎,  
河村公隆, 坂田 将, 三瓶良和,  
鈴木徳行, 高田秀重, 田上英一郎,  
奈良岡浩, 村江達士, 山本正伸

書記: 河野和子(事務局)

### 議 事

議事1. 2003年度事業・会計報告  
2003年度事業・会計報告(資料1)について、総会に提出することを承認した。

議事2. 2004年度事業・会計中間報告および今後の計画  
2004年度事業・会計中間報告および今後の計画(資料2)について、総会に提出することを承認した。

議事3. 研究奨励賞(田口賞)および有機地球化学賞(学術賞)  
研究奨励賞(田口賞)について田上英一郎委員長より、有機地球化学賞(学術賞)について武田信従委員長より選考結果報告があり、それぞれ以下のように承認された。

- (1) 研究奨励賞(田口賞)について田上選考委員長より説明があった。期限内に応募がなく、規定に従い、「応募者なし、該当者なし」で本年度は不選出とした。今後、積極的に推薦することが話し合われた。
- (2) 有機地球化学賞(学術賞)について武田選考委員長より説明があった。今年度は田上英一郎会員(名古屋大学)が受賞者となることを承認。受賞題目を「海洋におけるアミノ酸・タンパク質の起源とその動態に関する研究」とした。
- (3) 有機地球化学賞(学術賞)、研究奨励賞(田口賞)関係の資料は選考委員会でファイルし、資料として引き継いでいくことを確認した。研究奨励賞(田口賞)、および有機地球化学賞(学術賞)の募集を行うときに、過去の受賞者についての情報も提供することとする。

#### 議事 4. 2005 年度事業・会計計画

2005 年度事業・会計計画(資料 4)と以下の事業計画を総会に提出することとした。

- (ア) 第 23 回有機地球化学シンポジウム(2005 年)を高知大学(代表世話人 池原 実会員)で開催する。
- (イ) ROG の編集・出版について、奈良岡委員長より報告があった。  
製作に関して、印刷所からの見積額が今までよりかなり抑えられているので、発行回数やページ数を増やすこと等が可能である。  
今後、総説、解説、報告等新しいカテゴリーを設定し、ROG を充実させる。  
次号の投稿〆切を 10 月頃に設定し、シンポジウムで投稿を呼びかける。
- (ウ) 30 周年記念事業について、地球・環境有機分子検索マニュアル作成 WG の山本正伸委

員長より活動の経緯について報告があった。  
「地球・環境有機分子検索マニュアル」の作成について、資料 6 に示すような二段階方式により事業を推進する。

ROG に「技術論文」として収録する。今後、その査読基準について検討する。

- (エ) ROG 表紙刷新については、現在応募が一件であることから、もう一度改めて応募をお願いする。

#### 議事 5. 会則の改訂

名誉会員規定について、会則改定(資料 5)を総会に提出することとした。

#### 議事 6. 会費長期未納者

会費長期未納者については、再度会費の納入をお願いするとともに、当会への参加継続の意思を確認することを承認した。

#### 議事 7. 運営委員の交代

坂田委員から金子会員への運営委員交代を総会に提出することとした。

#### 議事 8. ROG の寄贈

日本科学技術図書館(Library of Japanese Science & Technology, The University, Newcastle upon Tyne, UK)からの ROG の寄贈依頼について、バックナンバーを 1 部ずつ送付、今後発行の ROG についても送付することとした。また、日本科学技術図書館へは蔵書リスト等の提供をお願いすることとした。

#### 議事 9. 会員現況

会員の現況について、資料 3 のとおりであることが報告された。

## 資料 1

2003 年度事業・会計報告(2003 年 1 月 1 日~2003 年 12 月 31 日)

### 事業報告

ニューズレター No.37 (2003.6.2), No.38 (2003.12.10) 発行  
 ROG Vol. 18 発行(2003.8)  
 ROG 編集委員会・田口賞受賞候補者選考委員会(2003.8.3; 於北大)  
 学術賞受賞候補者選考委員会(2003.8.3; 於北大)  
 運営委員会(2003.8.3; 於北大)  
 総会(2003.8.4; 於北大)  
 第 21 回有機地球化学シンポジウム(2003.8.4~8.5; 於北大)  
 30 周年記念事業(地球・環境有機分子検索マニュアル作成)WG  
 ホームページの改訂

### 会計報告

一般会計

収入の部 (円)		支出の部 (円)	
前年度繰越金	1,051,466	ROG 製作	342,840
賛助会費	120,000	送料	20,230
個人会費	178,000	H P オンライン化維持費	49,350
ROG 収入	38,540	雑費	7,343
利子	40	事務局経費	30,000
		手数料	602
		次年度繰越金	937,681
計	1,388,046	計	1,338,046

田口基金 収入の部 (円)		支出の部 (円)	
前年度繰越金	1,983,426	副賞 (学術賞)	8,190
利子	10	送料	580
		次年度繰越金	1,974,666
計	1,983,436	計	1,983,436

### 会計監査報告

有機地球化学研究会および田口基金の 2003 年度会計報告を、出納簿、領収書、郵便料金受領書、その他提示された証明書類に基づいて審査した結果、それが正確に処理されていると認められましたので、ここに報告致します。

平成 16 年 5 月 31 日

監事 山本 修一 (印)

### 資料 2

2004 年度事業・会計中間報告および今後の計画

#### 事業中間報告 (2004 年 1 月 1 日～2004 年 8 月 6 日)

ニュースレターNo.39 発行 (2004.6.12)

30 周年記念事業 (地球・環境有機分子検索マニュアル作成) WG

ROG 編集委員会・田口賞受賞候補者選考委員会 (2004.; 於大妻女子大)

学術賞受賞候補者選考委員会 (2004; 於大妻女子大)

運営委員会 (2004.8.4; 於大妻女子大)

総会 (2004.8.5; 於大妻女子大)

第 22 回有機地球化学シンポジウム (2004.8.5～8.6; 於大妻女子大)

#### 今後の計画 (2004 年 8 月 7 日～2004 年 12 月 31 日)

ROG Vol. 19 発行

ニュースレターNo.40 発行

#### 一般会計中間報告 (2004 年 1 月 1 日～2004 年 7 月 31 日)

一般会計

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	937,681	送料	11,360
賛助会費	0	雑費	1,544
個人会費	130,000	残高	1,057,041
ROG 販売 (送料込み)	2,240		
利子	24		
計	1,069,945	計	1,069,945

#### 今後の一般会計計画 (2004 年 8 月 1 日～2004 年 12 月 31 日)

一般会計

収入の部 (円)		支出の部 (円)	
前年度繰越金	1,057,041	送料	15,000
賛助会費	120,000	H P オンライン化維持費	50,000

個人会費	137,000	事務局経費	30,000
ROG ( ページ超過等 )	20,000	雑費	3,000
利子他	20	ROG 製作	350,000
		次年度繰越金	886,061
計	1,334,061	計	1,334,061

田口基金		支出の部	
収入の部		田口賞 ( 副賞 )	0
前年度繰越金	1,974,666	学術賞 ( 副賞 ) <sup>注)</sup>	8,190
利子	10	次年度繰越金	1,966,486
計	1,974,676	計	1,974,676

<sup>注)</sup>学術賞(副賞)は1999年度,2000年度は一般会計から,2001年度以降2004年度まで,合計27,712円が田口基金から支出されてきた。電子会議議事録(2004.08.12-1)にあるように,2004年度中に27,712円を一般会計より引き去り,田口基金に返却することとなっている。

### 資料3

入会(2003.8.1~2004.7.31)

(学生会員)阿部 勢,佐藤直彦,中西弘和,関根基己,白木雄介,愿山靖子,大塚高弘  
椎根 大,下総麻衣子,真名垣聡

(一般会員)松林英樹,中川書子

退会(2003.8.1~2004.7.31)

(一般会員)和田秀樹,佐野方昂

除名(2003.8.1~2004.7.31)なし

現在の会員数は148名(一般会員123名,学生会員21名,賛助会員4社)

### 資料4

2005年度事業・会計計画(2005年1月1日~2005年12月31日)

#### 事業計画

ROG Vol. 20 発行

ROG編集委員会・田口賞受賞候補者選考委員会

学術賞受賞候補者選考委員会

運営委員会・総会

第23回有機地球化学シンポジウム

ニュースレターNo.41,42 発行

地球・環境有機分子検索マニュアル作成 WG

#### 会計計画

一般会計

収入の部(円)		支出の部(円)	
前年度繰越金	886,061	ROG 製作	350,000
賛助会費	120,000	送料	25,000
個人会費	247,000	事務局経費	30,000
ROG 収入	2,000	HPオンライン化維持費	50,000
ページ超過	20,000	雑費	5,000
利子他	30	次年度繰越金	815,091
計	1,275,091	計	1,275,091

## 資料5

旧)

第4条 本会の会員は次の3種とする。

(1) 正会員

(2) 学生会員

(3) 賛助会員： 本会の目的を賛助し、第6条に定める賛助会員会費を納める団体または個人

第5条 (省略)

第6条 会員は次の種別に従って会費を毎年度前納するものとする。

正会員：年額 2,000 円

学生会員：年額 1,000 円

賛助会員：年額 1口 20,000 円とし1口以上

新)

第4条 本会の会員は次の3種とする。

(1) 正会員

(2) 学生会員

(3) 賛助会員： 本会の目的を賛助し、第6条に定める賛助会員会費を納める団体または個人

(4) 名誉会員： 有機地球化学または関連する分野において顕著な功績を有し、本会の発展に貢献した個人で、総会において承認される。

第5条 (省略)

第6条 会員は次の種別に従って会費を毎年度前納するものとする。

正会員：年額 2,000 円

学生会員：年額 1,000 円

賛助会員：年額 1口 20,000 円とし1口以上

名誉会員：会費は要しない

改定日： 2004年8月5日

## 資料6

### マニュアル作成WGレポート

有機地球化学会30周年記念事業として「地球・環境有機分子検索マニュアル」の作成を提案する。

名称：地球・環境有機分子検索マニュアル

目的：これまで研究室や個人単位で集積されてきた有機分子同定データを出版することにより、有機地球化学研究者および関連分野の研究活動の効率化および推進に寄与する。

カバーする分析データ：GC/MSのクロマトグラムと質量スペクトルを主体とするが、LC/MS他の機器のデータも随時カバーする。

対象有機分子：堆積物・堆積岩・化石燃料中の有機分子を主体とするが、生物中など他の関連物質も随時カバーする。

記述の形態：マニュアルタイプ(近藤さん、山本修一さんの論文の形式)を基本とするが、データ集タイプ(Philipの質量スペクトル集)も認める

実施方法：2段階方式をとる。

第一段階(2004年から数年間)

出版形態：ROG通常号の技術論文として2004年から数年間、毎年出版する。

言語：日本語

執筆者：マニュアル作成WGで化合物群ごとに執筆者を検討し、依頼する。執筆はWGが指定する執筆要項に従い行う。

印刷費：ROG1号あたり40万円。

配布価格：会員に無料配布。

成果物の評価：ROG誌の技術論文として評価される。

原稿締め切り：(第1回目)今年度内

## 第二段階（数年後）

第一段階の進行状況を見て、実現可能性を判断したのち、実施する。

第一段階で収録されたデータに、データを補充して単行本として出版する。

言語：英語

執筆者：マニュアル作成WGで執筆者を検討し、依頼する。

査読謝礼・編集費・印刷費：未定、原稿が揃っていれば科研費の出版補助（平均 200 万円）を申請できる。

配布価格：有料

成果物の評価：有機地球化学会（編）、監修者数名（監修）、データ提供者（著者）。

## 今後の予定

2004 年 8 月 原稿雛形完成（2004 年秋に先行的に印刷，マニュアル第 1 号），執筆要項完成

2004 年 9 月 執筆者の選定

2004 年 9 月 執筆依頼

2005 年 3 月 原稿受け取り

2005 年 5 月 査読終了

2005 年 6 月 マニュアル第 2 号出版

マニュアル作成WG（山本正伸・福島和夫，石渡良志，山本修一，近藤寛，有信哲哉）

## 2004 年度総会記事

### 2004 年度 日本有機地球化学会総会 議事録

日時：2004 年 8 月 5 日（水） 17:00～18:00

場所：大妻女子大学 社会情報学部棟

総会開催に先立ち、福島会長より挨拶があった。総会の議長に金子信行会員が立候補し、満場一致で議長に選出された。総会では以下の議事が審議され承認された。

### 議 事

議事 1. 2003 年度事業・会計報告（資料 1）

議事 2. 2004 年度事業・会計中間報告および今後の計画（資料 2）

有機地球化学賞（学術賞）に関わる経費は、2000 年度までは一般会計から支出されていたが、それ以降は田口基金から支出されていることが指摘された。この件について調査し、運営委員会を通して正常化することとなった。

- 総会終了後直ちに運営委員会の電子会議が実施されニュース誌に掲載されている電子会議議事録（2004.08.12-1）のように対処することとなった。

議事 3. 会員現況の報告と退会会員について（資料 3）

議事 4. 2005 年度事業・会計計画（資料 4）

議事 5. 会則の改訂（資料 5）

議事 6. 運営委員の交代（坂田将会員から金子信行会員への交代）

報告 1. 2005 年度有機地球化学シンポジウムが高知大学（代表世話人 池原 実会員）にて開催される。

報告 2. 日本科学技術図書館（Library of Japanese Science & Technology, The University, Newcastle upon Tyne, UK）へ ROG を寄贈することとなった。

報告 3. 研究奨励賞（田口賞）は応募者なしにより不選出。

報告 4. 有機地球化学賞（学術賞）は、今年度は田上英一郎会員（名古屋大学）が受賞、研究題目は「海洋におけるアミノ酸・タンパク質の起源とその動態に関する研究」。

- 総会終了後に授賞式が行われた。

### \* 電子会議議事録（2004.08.12-1）

有機地球化学賞（学術賞）に関わる経費は、2000 年度までは一般会計から支出されていたが、それ以降は田口基金から支出されていることが 2004 年度有機地球化学会総会（大妻女子大学）において指摘された。この件について調査し、運営委員会を通して正常化することとなった。

事務局が関係資料を調査した結果、1999 年度、2000 年度は一般会計から、2001 年度から 2004 年度（今回）の間は田口基金から支出されていることが判明した。2000 年度の事業計画や 2000 年度、2001 年度の議事録には田口基金から支出する計画はなく、当初計画したように一般会計から支出すべき費目であることが判明した。

この原因は、事務局(北大)の不注意にあり、事務局が移転した時点から、以前の事業計画をしっかりと顧みず田口基金から学術賞に係る経費を出費し続けていたことが原因であった。

運営委員会にて電子会議を実施し下記のように処理することとした。

- (1) 総会で承認された会計計画はそのまま総会の議事録に掲載する。学術賞経費の支出に関するこの間の経緯を併記する。

- (2) 一般会計より支払うべき学術賞関係経費を、2004年度後期(2004年12月まで)に一般会計より、田口基金に入金する。その結果を、来年度の総会にて報告する。なお、一般会計から支払われるべきだった金額は、2001年10,752円、2002年なし、2003年8770円、2004年8,190円。合計27,712円である

## Information

### 有機地球化学賞(学術賞)2005年度受賞候補者推薦の募集

**有機地球化学賞(学術賞)2005年度受賞候補  
選考委員会 委員長 武田 信従**

電話:043-275-9311, FAX:043-275-9316  
E-mail:nobu@rc.japex.co.jp

有機地球化学賞(学術賞)受賞候補者選考規則により、同賞受賞候補者推薦を受け付けます。つきましては、下記をご参照のうえ受賞候補者をご推薦下さい。

#### 記

候補者の資格:有機地球化学分野で顕著な学術業績をあげた本会会員。

募集の方法:本会会員の推薦による(自薦他薦を問いません)。

推薦の方法:下記の事項についてA4サイズの用紙に任意の型式で記入する事。

- 1) 候補者の履歴書(学歴,大学卒から。職歴,その他)
- 2) 推薦の対象となる研究題目および推薦理由
- 3) 研究業績目録(推薦の対象となる主要な論文10編)
- 4) 推薦者の氏名と連絡先

締め切り日:2005年5月31日(火)(当日消印有効)

提出及び問い合わせ先:

〒261-0025 千葉市美浜区浜田 1-2-1 石油資源開発(株)技術研究所  
武田信従

これまでの受賞者と研究題目

2004年度: 田上英一郎「海洋におけるアミノ酸・タンパク質の起源とその動態に関する研究」

2003年度: 氏家良博「有機熟成度指標 stTAI の提唱とその地質学への適用に関する研究」

2001年度: 河村公隆「降雪・氷床コアの有機物分析による大気環境復元の研究」

2000年度: 武田信従「根源岩の圧密熱分解実験による石油生成に関する研究」

2000年度: 福島和夫「酸性湖を中心とした異なる環境下での堆積物中の鎖状脂質化合物の特徴に関する研究」

1999年度: 鈴木徳行「速度論的アプローチによる有機物熟成過程の研究」

### 研究奨励賞(田口賞)2005年度受賞候補者の募集

**研究奨励賞(田口賞)2005年度受賞候補  
選考委員会 委員長 田上 英一郎**

候補者の資格:生年月日が1971年4月2日以降で、有機地球化学、石油地質学、堆積学の3分野のいずれかで優れた研究を行い、将来にも研究の発展を期待できる方。本会会員に限りません。

研究奨励賞(田口賞)受賞候補者選考規則により、同賞受賞候補者推薦を募集いたします。

つきましては、下記をご参照のうえ受賞候補者をご推薦下さい。

募集の方法:本会会員の推薦による。自薦他薦は問いません。

#### 記

推薦の方法:下記の事項をA4サイズの用紙に記入

し、書留で郵送する事。記入の様式は自由。

- 1) 推薦理由及び研究題目
- 2) 研究業績目録
- 3) 研究論文の別刷り又はコピー
- 4) 推薦者の氏名と連絡先

締め切り日：2005年5月31日(火)(当日消印有効)

提出及び問い合わせ先：

〒464-8601 名古屋市千種区不老町  
名古屋大学大学院環境学研究科地球環境科学  
専攻

田上英一郎

電話:052-789-3472・FAX:052-789-3436

E-mail: tanoue@ihas.nagoya-u.ac.jp

これまでの受賞者と研究題目

2002 年度: 山中寿朗「島弧 - 背弧系海底熱水活動域における熱水性石油の研究」

2001 年度: 松本公平「ステロール炭素安定同位体比測定と地球化学への応用」

早川和秀「沈降粒子中の脂肪酸を指標としたプランクトンブルームの評価」

1998 年度: 古宮正利「連続昇温加熱による南極炭素質隕石中の不溶性有機物分解とその組成の解明」

1997 年度: 山田桂太「個別炭化水素の安定炭素同位体組成による有機地球化学的研究」

山本正伸「アザーレン組成に基づく石油移動の有機地球化学的研究」

## ROG 投稿原稿募集中！！

### Researches in Organic Geochemistry 編集委員長 奈良岡 浩

ROG (Researches in Organic Geochemistry) は本学会の学会誌で有機地球化学に関連する論文を掲載し、来年で Vol. 20 を向かえます。

1) 論文 (articles)、2) 短報 (notes)、3) レター (letters)、4) 技術論文 (technical papers)、5) 総説 (reviews) からなり、今年から技術論文も加わり、学会会員の皆様に興味をもって読んでいただけるような出版物にしていきたいと思っています。

現在、Vol. 20 へ向けて原稿を募集中です。3月末をめどに ROG にぜひ投稿して下さい。最新結果から総説まで幅広く募集中です。博士論文や修士論文の一部の発表も歓迎いたします。

今年から PDF ファイルによる電子投稿も受け付けており、迅速に査読を進めてまいります。新たな ROG 投稿規定ができましたので、以下に掲載させていただきます。

皆さんの積極的な投稿をお願いします。

ROG 編集長・岡山大理・奈良岡浩

### 「Researches in Organic Geochemistry」投稿規定 (2004年11月4日改訂)

#### 1. 投稿資格

投稿原稿の著者(連名の場合は1人以上)は、日本有機地球化学会会員であること。ただし、編集委員会が認めた場合はこの限りではない。

#### 2. 投稿原稿

投稿原稿は、有機地球化学に関して価値ある内容のもので、印刷物として未発表のもので、以下のいずれかのものである。1) 論文 (articles)、2) 短報 (notes)、3) レター (letters)、4) 技術論文 (technical papers)、5) 総説 (reviews)。これらのうち 1)-4) は原著論文 (original papers) である。

1) 論文は、投稿によるものと編集委員会が依頼したものである。

2) 短報は、短い論文で刷り上がり4頁以下とする。

3) レターは、価値ある問題を簡潔に提示したもので、必ずしも明確な結論を必要としない。刷り上がり2頁以下とする。

4) 技術論文は、分析データを網羅的に紹介したり、分析技術に関して解析法などを記述したものである。

5) 総説は、これまでに報告された主要論文の解説、位置づけ、意義づけを

行い、一領域における研究の発展を記述したものである。

### 3．投稿原稿の採否

投稿原稿の最終採否は、審査員の審査内容を基に、編集委員会が決定する。また、編集委員会は投稿原稿に訂正を求めることがあり、訂正が原則として2ヶ月以内になされない場合は、投稿を取り下げたものとみなす。

### 4．論文の掲載

論文の掲載は原則として受理された順とする。ただし、編集委員会が変更することがある。

### 5．原稿の執筆要項

#### 1) 原稿のサイズと頁数

原稿は邦文か英文のいずれかとする。原稿の大きさはA4版とする。

#### 2) 原稿の行数と字数

原則としてプリンターによる印字とする。手書きを希望する場合は編集委員会に問い合わせること。

(邦文原稿) プリンターにより印字する場合は32字×25行とする。

(英文原稿) ダブルスペースで印字し、1頁25行とする。

#### 3) 題名および著者名と住所

原稿の表紙には、題名、著者名、研究の行われた機関名とその住所を記す。邦文の場合は、英語でもそれらを記す。なお、現在の住所が研究の行われた場所と異なるときには、現住所を脚注として付記する。

#### 4) 要旨

原稿には200語以内の要旨(Abstract)をつける。邦文原稿の場合でも要旨は英文とする。なお、技術論文には必ずしも要旨を必要としない。

#### 5) 図と表

図表とその説明は英語で書く。図表と写真はA4版、またはA4版の台紙に貼る。オリジナルのものは、そのまま写真製版ができるよう文字や記号が適切な大きさで、鮮明なものとする。不鮮明なものや小さすぎるものは、著者に修正を求めることがある。

#### 6) 引用文献

本文中の引用文献は以下のようにする。

佐藤ら(2000)によれば-----; According to Sato *et al.* (2000)-----,

----- (斎藤・鈴木, 2000); ----- (Saito and Suzuki, 2000)

文献リストはアルファベット順にそろえ、以下のようにする。

白木雄介・千吉良晶子・福島和夫(2003) 部分循環汽水湖・鹿児島県貝池  
における懸濁物質と堆積物中のバクテリアバイオマーカー. *Res. Org.  
Geochem.* **18**, 47-55.

Yoshioka H. and Ishiwatari R. (2003) Low molecular weight compounds and biological markers generated by ruthenium tetroxide oxidation of a type II kerogen: Implications for molecular structure and diagenetic reaction. *Res. Org. Geochem.* **18**, 11-21.

### 6．原稿の順序

原稿は以下の順に揃え、頁番号を頁の下段中央に付ける。頁番号は表紙を1とし、最後の表を最終番号とする。

表紙

英文要旨

本文

謝辞

引用文献

## 図の説明

図（図番号を頁の右上か右下に付ける）

表（表番号と表題を表の上部に記入する）

## 7. 原稿の部数と送り先

投稿に際しては、原稿の PDF ファイルを電子メールの添付ファイルとして、編集委員会 (or editors@ogeochem.jp) 宛に送付する。または原稿のコピー 3 部を郵送にて、編集委員長宛に送付する。論文審査をはやく進めるために PDF ファイルでの投稿を歓迎する。なお、審査終了後の最終原稿(テキストと図表)はオリジナル 1 部とそれらの電子ファイルを郵送にて編集委員長宛に送付する。

## 8. 著作権

本誌に掲載された論文等の著作権は本会（日本有機地球化学会）に属する。

## 9. 編集委員会

### 編集委員長

奈良岡浩、岡山大学理学部

〒700-8530 岡山市津島中 3 丁目 1-1 Fax 086-251-7895

### 編集委員

河村公隆、北海道大学低温科学研究所

〒060-0819 札幌市北区北 19 条西 8 丁目 Fax 011-706-7142

三瓶良和、島根大学総合理工学部

〒690-8504 松江市西川津町 1060 Fax 0852-32-6469

鈴木徳行、北海道大学大学院理学研究科

〒060-0810 札幌市北区北 10 条西 8 丁目 Fax 011-706-0394

高田秀重、東京農工大学農学部

〒183-8509 府中市幸町 3 丁目 5-8 Fax 0424-60-8264

山本正伸、北海道大学大学院地球環境科学研究科

〒060-0810 札幌市北区北 10 条西 5 丁目 Fax 011-706-2379

山本修一、創価大学教育学部

〒192-8577 八王子市丹木町 1-236 Fax 0426-91-9309

## 2005 年年会費納入のお願い

会員の皆様には日頃よりご支援いただき、誠にありがとうございます。事務局から 2005 年の年会費の納入についてご協力をお願いいたします。年会費は一般会員 2000 円学生会員 1000 円となっております。下記郵便口座までお払い込みをお願いいたします。ご自分の最終納入年度がわからない等ご不明の点がございましたら、どうぞ遠慮なく事務局までお問い合わせください。また、職場や自宅を移動された方は名簿作成と郵便物配布のために新しいご住所、電話番号、ファックス番号を下記までご連絡下さい。また、E-mail アドレスをお持ちの方は、ニュースレターのメール配信のため、差し支えない限り E-mail アドレスを事務局までお知らせいただくようお願いいたします。

編集後記：若手研究者紹介のコーナー People は今回お休みしました。皆様の寄稿をお待ちしております。(編集)

発行責任者 有機地球化学会会長 福島 和夫  
〒390-8621 長野県松本市旭 3-1-1 信州大学理学部物質循環学科  
Phone: 0263-37-2502, Fax: 0263-37-2560, e-mail: kfukush@gipac.shinshu-u.ac.jp

有機地球化学会事務局  
〒060-0810 札幌市北区北 1 0 条西 8 丁目  
北海道大学 大学院理学研究科 地球惑星科学専攻内  
有機地球化学会事務局  
Phone&FAX: 011-706-3683  
e-mail: secretariat@ogeochem.jp (事務局員全員に配信されます)  
郵便口座 00110-7-76406  
(名義人 日本有機地球化学会)  
普通口座 319-3463842 (北洋銀行北二十四条支店)  
(名義人 日本有機地球化学会 鈴木徳行)

編集者 古宮正利 (産業技術総合研究所) 早川和秀 (滋賀県琵琶湖研究所)  
e-mail: news@ogeochem.jp

有機地球化学会ニュースレターはホームページでもご覧になれます。  
アドレス: <http://www.ogeochem.jp/>